



CSR 経営評価意見書

京阪電気鉄道株式会社 御中

目的と実施した作業についての概要

京阪電気鉄道の事業と関係のない第三者として、同社が作成する「CSR レポート 2010」に記載されている CSR 経営活動の評価を行うことにより、報告書の信頼性を高めることを目的として所見を述べます。

京阪電気鉄道の CSR 経営活動がどのように計画され実行されているのか、その結果であり開示情報の基礎でもあるパフォーマンスデータが、どのように作成され、評価され利用されているのかについて、上田成之助社長へのインタビューを始め、社内各部門・事業所を訪問し、関連書類の閲覧や各担当者への質疑を行いました。また、寝屋川車両工場他では公表される数値の根拠資料について定められたシステムどおりの作業が行われているか、基礎的なチェックを行いました。

評価意見

京阪電気鉄道は、2010 年 4 月に開業 100 周年を迎えられました。100 年間絶え間なく地域社会、顧客その他ステイクホルダーに対して、快適な生活環境を創造し、社会に貢献する取り組みが行われてきたことは高く評価されます。2009 年度の CSR 活動は、経営トップのリーダーシップのもとで、「京阪グループ経営理念」を上位概念として「行動憲章」、「経営姿勢」、「環境理念」の3つが有機的に体系化された取り組みが継続して行なわれています。顧客サービスの向上に積極的に取り組まれるなど、京阪グループ一体で CSR 活動の進化が目に見えるようになりました。

安全への取り組みに関しては、社長、安全統括管理者の指揮のもと、輸送の安全確保を最優先とする運輸安全マネジメント体制が構築され有効に運用されています。2009 年度は国土交通省の運輸安全マネジメント評価でも高い評価を受けられ、このような第三者からの評価は、京阪電気鉄道の運輸安全マネジメントへの真摯な取り組みの成果が高く評価されている証左でしょう。

CSR 活動および社会への取り組みに関しては、前年に続きお客さまセンターの活動の充実や鉄道 CS 推進会議の活動など、顧客の声を吸い上げ、マネジメントに落とし込む活動が見えるようになってきました。

環境への取り組みに関しては、環境負荷低減に積極的に取り組まれています。2009 年度は、概ね目標を達成されています。今後は、長期的視点に立った環境目標の設定と地球環境保全に向けた企業姿勢の積極的な表明が必要になると思われます。なお、環境パフォーマンスデータの算出について、チェックした範囲では重大な間違いは認められませんでした。

安全に関する情報について気づいたこと

2009 年度は、ハード面では新型 ATS の開発、淀駅付近立体交差化に伴う下り線の高架化などの対策に取り組み、ソフト面ではヒヤリ・ハット情報の有効活用の推進や従来から月に一度開催される鉄道安全会議に加え、グループ会社との事故情報の共有化を計るための鉄道グループ安全会議を開催するなどの取り組みが行われています。京阪グループの安全に対する取り組みは、経営トップや安全統括管理者の強いリーダーシップのもとに遂行されています。さらにソフト面では新人の運転士は運転士指導員の指導を受ける仕組みが古くから構築されておりヒューマンエラーの防止に努めておられます。先輩後輩の OJT を通じた人的交流により、運転士としての具備すべき人間性が育成されるという運転士育成プログラムは高く評価できます。

京阪グループの運輸安全マネジメントは現在でも高い水準にありますが、さらに高いレベルを目指したマネジメントへ発展させることが期待されます。

環境に関する情報について気づいたこと

環境マネジメントシステムに基づき、各種プロジェクトを通じた部門横断的な活動が行なわれています。京阪電気鉄道の最大の環境負荷は、鉄道事業の電力消費です。2009 年度は中之島線開業で営業路線が増加しましたが、新型車両の効率的活用、省エネ運転の実施などの対策により運転用電力の原単位目標は達成され、新線の地下駅の開設による負荷増加があったにもかかわらず、総電力量も前年度から微増にとどまったことは評価できます。高架化する新淀駅の「調光システム」の採用、パーク＆ライドの推進、サイクル＆ライドの拡大など地球温暖化防止への取り組みも積極的に行なわれました。